

教育目標具現化の全体構想

学校の教育目標

豊かな心をもち、かしこく、たくましく生きる子供の育成

目指す子供像

自ら考え表現できる子供

- 粘り強く学習に取り組む子
- 相手の考えをよく聞き、自分の考えを進んで表現する子
- 学習規律を守り、互いに認め合いながら学んでいく子

互いに助け合う子供

- 相手を思いやり、進んで協力する子
- 互いのよさを認め、励まし合う子
- 周囲に感謝し、ふるさとを大切に思う子
- 約束を守る子

健康に努める子供

- 目当てをもって楽しく運動する子
- 心や体の健康について自ら考え、規則正しい生活ができる子
- いのちの大切さを考え行動できる子



本年度の重点目標

自ら考え、いろいろなことに挑戦し、自分を表現できる子供の育成

学校運営の方針

1 新たなる学びに向かう学校づくり

- ・学力向上に関する課題を焦点化し、課題に基づいた学力向上策を立案する。そして、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行い、子供たちが「わかった」「できた」を実感し、自分の考えを生き生きと表現できるよう授業を推進する。
- ・富山県小学校教育研究会研究推進校社会科の指定を受けたことをよい機会とし、子供たちが、自ら問題を見付け、課題解決に向けて考え、多様な方法で追究していくける問題発見・解決型学習を取り入れる効果的な学習過程の工夫に努める。
- ・ICTを最大限活用しながら、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」と、子供たちの多様な個性を関わらせることによって、最大限に生かす「協働的な学び」の一体的な充実を図るために努める。
- ・学習環境の整備、防災や危機管理に基づいた指導等学校の新しい生活様式を踏まえ、子供たちが安心安全に学べる学習環境を保障する。

2 豊かな心を育む学校づくり

- ・日々の教育活動の中で、人や自然、社会と関わる体験を通して、自他のいのちがかけがえのない存在であることを実感する「いのちの教育」を推進する。
- ・「相手がいやがることをしない。言わない」のルールを決め、毅然とした態度で組織的にいじめの未然防止や早期発見、対応に努める。
- ・特別な配慮を必要とする子供の指導にあたっては、子供の特性を見極め、専門能力スタッフや関係機関等と連携し、課題の解決・改善にあたる体制を整備する。



たくましく生きる体力の向上を目指す学校づくり

- ・目標をもって運動に取り組む場を設けるとともに記録を蓄積することで、運動の習慣化を図る。
- ・運動する楽しさや喜びを味わえるようにし、体力の向上を図る。
- ・自らの健康に关心をもち、病気やケガから身を守るために実践力を養う。

4 地域とともにある学校づくり

- ・学校・地域にある材を生かした「ふるさと学習」を推進し、郷土への誇りと愛情を育む。
- ・教育活動に自然や地域社会の人々と触れ合う直接体験を積極的に取り入れる。
- ・教育活動を通して、組織の一員、地域の一員として貢献しようとする気持ちを育てる。

5 家庭・地域との連携を推進し、信頼される学校づくり

- ・各種たより、ホームページなどによる積極的な情報提供や情報共有により、保護者や地域の方々と連携して教育活動を進め、信頼される開かれた学校づくりに努める。
- ・地域の幼稚園や保育園、中学校との交流・連携を図り、連続性・一貫性のある教育に努める。

アクションプラン

思いや考えをもち 友達に伝えることができる

学期ごとに自己評価と他者評価によって
客観的に自分の実態を振り返る

《自己設定の達成 80%》

- 話す内容や目的を明確にした上で、ペアやグループ学習を取り入れる。
- 課題を明確にすることで、児童の考えを引き出す。
- 朝活動等の時間を活用し、思いを言葉で表す能力を身に付ける。

進んで挨拶ができる

定期的に自己評価する

《自己設定の達成 90%》

- 日頃の授業や生活の中で、挨拶をするとの大切さを理解し、徹底する。
- 委員会活動やあいさつ運動等を効果的に生かし、よりよい挨拶を目指すようにする。
- 定期的に評価を継続し、改善していることを自覚化できるようにする。

習慣的に運動に取り組んでいる

学期ごとに自己評価をし、記録を蓄積
して客観的に自分の実態を振り返る

《自己設定の達成 80%》

- 運動の記録を蓄積することで、運動の習慣化につなげたり、自己の成長を感じられるようにしたりする。
- 運動の特性に応じた魅力ある環境や場を提供する。
- 体育の授業と連動し、運動する楽しさを味わわせる。